

平成28年度丹波の森夢会議 記録

平成28年4月に発足した第8期丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」に掲げた「自立」、「交流」、「元気」、「絆」、「安全安心」をテーマとした5つの将来像の実現に向け、8つのグループに分かれ様々な実践活動に取り組んでいます。

これからの活動の具体的な方向性や、丹波地域で活動する地域団体との協働・連携の方策について、たくさんのアイデアを募ることで、相互の「つながり」を深め、丹波地域全体での将来像実現に向けた取組の活性化を目指し、「丹波の森夢会議」を開催しました。

- 1 開催日時 平成29年3月4日（土） 13:00～16:15
- 2 場 所 篠山市四季の森生涯学習センター 多目的ホール（篠山市網掛 429）
- 3 テーマ 「つながろう たんば つなげよう たんば」
- 4 参加者 約110名
- 5 内 容

（1）開会あいさつ

足立啓一 丹波地域ビジョン委員会委員長



（2）丹波地域ビジョン委員会実践活動グループの活動発表

グループごとに、活動の振り返りや来年度の活動予定などについて発表しました。

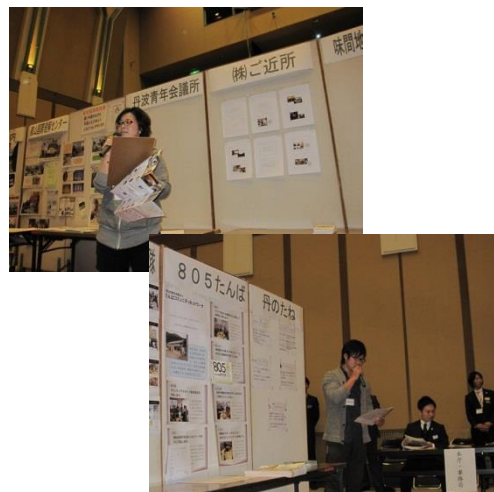
将来像	グループ名	活動内容
みんなで創る 自立の たんば	発見「食」丹波	地域に埋もれたレシピなどの資源を発掘し、それらを基にしたビジネスモデルを考え、展開する活動
都市に近い田舎を楽しむ 交流の たんば	里山 de ふれあい	里山をフィールドにした地域を巻き込む交流・体験活動により、里山保全を広く展開していく活動
やりがいを実感できる 元気の たんば	丹波の里塾	有機農業体験と丹波の食材を活用した食品加工体験を提供し、丹波産農作物等の魅力を発信する活動
	丹波 j o b	日の当たらない日常の仕事に潜む新しい楽しみを発見し、都市住民とのマッチングを図る活動
多世代が支えあう 絆の たんば	高齢者の 生きがいづくり	多世代交流の場づくりや認知症対策等の情報発信など、誰もがいきいきと暮らせる地域をつくる活動
	きずな	ひきこもり・不登校の居場所づくりや、当事者と家族を支える地域ぐるみでの見守りを広げる活動
	夢ジョッキー	高校生に大人の経験を語る「夢授業」など、若者のキャリア形成を地域の大人が支える仕組みを広げる活動
ともに暮らす 安全安心の たんば	さるが出た!!!	自治会等への様々な啓発活動により、地域が当事者意識を持ち防災防犯の取組を始めるきっかけをつくる活動

(3) 丹波地域の地域団体による活動紹介

活動のパネル展示とともに、団体代表者が主な活動内容などを紹介しました。

《参加団体》

- ・一般社団法人 天内(あもち)
- ・特定非営利活動法人 篠山国際理解センター
- ・株式会社 ご近所
- ・一般社団法人 丹波青年会議所
- ・味間地区まちづくり協議会
- ・丹波市地域おこし協力隊
- ・805たんば (たんばコミュニティエフエム)
- ・特定非営利活動法人 丹のたね



(4) 知事講評 (井戸兵庫県知事)

ビジョン委員会の各活動グループと参加地域団体の発表について、井戸知事からコメントをいただきました。

- ・随分いろいろな活動を行っておられていて、新たに丹波に移って来られた方がグループを作って頑張っているということがよくわかった
- ・丹波の魅力を見つけて発信したり、丹波の作物を商品化する、里山を活用するなど、持っている地域資源を活用する活動が特徴的である
- ・とても実践的な活動をされているというのが印象的であった
- ・この活動にどのように広がりを持たせていくのか、というのが2年目の課題になるかと思う。このように活動すればこのような成果が出るというのが分かった1年だったと思われるので、それを今後はどう地域に持ち込んでいくのか、または仲間を募っていくのかなどを意識していただけると、広がりがでるのではないかと思う
- ・高校生や大学生との協働や、丹波は元気の良い協議会が多いのでそちらとの連携も検討してみてはどうか。更なる活動に期待をさせていただきたい



(5) ワークショップ (コネコネワーク)

一宮祐輔企画部会長の進行のもと、ビジョン委員会の活動グループと参加地域団体それぞれの活動を象徴するキーワードを使って、それらの活動を結びつけたり、新たな活動展開につなげる、アイデア出しのワークショップを参加者全員で行いました。

ワークショップの最後には、専門委員のお二人からコメントをいただきました。

横山宜致 丹波地域ビジョン委員会専門委員

- ・ 2つのキーワードを結びつけるというワークだったが、ここから生まれたアイデアで、関連する団体を結びつける効果も発生する
- ・ 中間支援組織の仕事に近いが、活動を結びつけていくという発想は重要
- ・ 知事からも「活動の広がり」という話があったが、来年度の活動にこのワークの体験を活かしてもらえたらと思う

小橋昭彦 丹波地域ビジョン委員会専門委員

- ・ キーワードがなかったらアイデアを出すのは難しかったのではないかと。制約が多いほどアイデア力は高まると言われている
- ・ 制約があると愚痴をこぼしがちになるが、むしろ制約があった方がより良い地域づくりのアイデアが生まれると発想を転換してほしい
- ・ 自ら制約を探してそれを乗り越えることが重要で、それが創造性に繋がる



(6) 兵庫 2030 年の展望について (山口兵庫県政策部長)

兵庫県が策定を進めている展望について、丹波地域の特徴を中心に山口政策部長から説明をいただき、参加者から意見発表を行いました。

《主な意見》

- ・ 農業高校の教育に I T の知識等の別のスキルを付加することで、中山間地域での活躍が期待できる人材育成につながるなど、人口の社会減が進む中で、高校生が地域に残るような教育方法・手段があるのではないか
- ・ 兵庫県下の状況も大事だが、日本全体で同様の状況が進んでいく中で、単に人口の取り合いではなく、もう一段階上の視点で何ができるのかも検討してもらいたい
- ・ 資源を持っているのは多自然地域であって、人口が都市に集中していてもあまり良いことはないと思う。多自然地域はもっと自信を持って良いのではないかと。資源を持つ人が独占するのではなく、シェアできる文化が広がれば良い
- ・ 移住してきた人に聞くと、丹波は「人が良い」と言う。丹波の人々と繋がることで、もっと楽しい暮らしができるという希望を見出して移住している人が多いのではないか。自分たちがこの地域で暮らすことを楽しめているかが大事だと思う

(7) 閉会あいさつ

大地由美 丹波地域ビジョン委員会副委員長

柳瀬厚子 丹波県民局長